様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：１１５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０１４１７

研究課題名（和文）修復的正義からみたインフォームド・コンセントの対話過程の検証

研究課題名（英文）Verification of the Informed Consent Dialogue Process from the Viewpoint of Restorative Justice

研究代表者
中西　淑美（Nakanishi, Toshimi）

山形大学・医学部・准教授

研究者番号：２０４２０４２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：日常診療から有害事象におけるインフォームド・コンセント（以下IC）の実態調査による分析研究から、ICには倫理と協働対話過程が重要であり、修復的な関係構築を目指す対話過程として、倫理メディエーション対話を構築した。
いじめ問題や重症な疾患の当事者達との対話を研究し、協働意思決定には、医療メディエーション対話で、複数の重症の神経難病の患者と家族を支援した。
結果は、国内・国際学会や論文・書籍で公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
諸外国での修復的正義の文献検討から当事者支援のICの本研究結果により、ICには、事前ケア計画の臨床倫理面を含むことが重要である。特に、患者の意向（自立性尊重）を重視した、協働意思決定の対話過程の展開が重要であると明確になった。
単なる情報共有や相互理解の相談から、説明理解の際に発生したコンフリクトへ対する修復的で自律尊重のある倫理的な医療メディエーションの協働対話プログラムへの構築と検証ができた。これらは、共創として、社会的意義があると考えており、完成させる予定である。今後も、当事者支援、特に、傷ついた方々や高齢者など脆弱な人々への自律尊重の視点から臨床倫理メディエーションを展開する予定である。

研究成果の概要（英文）：From analytical research based on a survey of informed consent (hereinafter referred to as IC) in adverse events from routine medical care, It found that ethics and collaborative dialogue processes are important for IC, and I constructed ethical mediation dialogue as a dialogue process that aims to build restorative relationships. I studied dialogues with bullying issues and with people with serious illnesses, and for collaborative decision-making, I used medical mediation dialogues to support patients and families with several serious neurological incurable illnesses. Results were published in national and international conferences, articles and books.
I were able to build and validate a program of collaborative dialogue for ethical medical mediation that is restorative and respectful of autonomy in response to conflicts that arise during explanatory understanding, rather than simply sharing information and consulting for mutual understanding.

研究分野：法社会学・新領域法学関連

キーワード：インフォームド・コンセント（IC）　修復的正義　協働意思決定　医療メディエーション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

修復的正義の基盤は対話にある。医療行為には予期せぬ有害事象である死亡・後遺症・心的傷害が不可避であり、当事者間の憎悪にまで至る感情的対立と認知的齟齬の発生が発生する。この発生の根源はインフォームド・コンセント（(以下 IC と称す）のありかたである。IC は、同意のための説明ではなく医師と患者の病いをめぐるナラティヴの相互交流的対話過程である。そして、この解決にはナラティヴ論に基づくケアと認知齟齬への対話過程が不可欠である。従って、IC とナラティヴという異なる概念を実践的に統合する試みが学術的意義を持つ。

事前事後的に構築される「専門知」を、語りによる再構成の危険性、混沌の被害者・加害者の語りにある「語りえないナラティヴ」という質を量的に実証することによって、法の秩序や自明性をこわさない IC 対話過程を分析する後方視的紛争研究である。

２．研究の目的

研究の目的は、２つの IC である、①原疾患 IC と、②有害事象後 IC の内実が重要であることを実証し、IC の認知齟齬の発生要因を動態的に明らかにし、関係の再構築が改善されるための修復的正義（尊重・被害・責任・赦し・協働意思決定）のある相互理解のための IC の対話とは何かを検証する。

３．研究の方法

研究方法の概要は、前述の２つの IC の関連の実態調査をするために、①郵送質問紙票調査法②先行研究文献調査③現地訪問調査④有害事象後記録物の調査⑤IC 同席等のインタヴュー調査⑥判例調査を実施する。要因分析は、臨床倫理的ならびに修復的な手法から、２つの IC について構造分析について、予備調査と共に質的量的に検証する。

（１）通常レベルの IC の具体的な分析として、①原疾患 IC と②有害事象後 IC における「十分な説明」の要因および紛争生成機序の検討として、IC 前後で、医師・患者被験者双方に、IC における説明の十分さ、内容の的確さなどにつき、再評価依頼し、どのパターンの説明モデルが紛争生成の要因となるのか、IC の説明パターンを分析する。次に、ALS の患者さんの IC 支援として、人工呼吸器装着の意思決定の対話過程を研究調査する。（本研究は山形大学医学部倫理委員会及び毎回個別同意書を取得し実施した）。

（２）IC 過程の実験データの獲得と分析として、通常の IC についてテキストマイニング分析による対話分析と検討を実施する。

諸外国での修復的正義の調査から当事者支援の IC の文献検討をふまえ、②事前指示、事前ケア計画の臨床倫理面での検討として、倫理原則の分析手法から IC における、臨床倫理メディエーションへ対話展開を試みる。

（３）有害事象 IC における修復的司法（以下 RJ と称す）の視点から、医療メディエーションの協働意思決定対話について検討する。国内外の RJ 研究者への面談や調査、視察と文献研究を実施し、IC 教育の研修・指導・支援での問題を明らかにする。刑事司法では、Social inclusion（社会包摂）に関する各国の取り組みを調べ、加害者と被害者の共感認識、IC での共感の必要性を検討する。

（４）有害事象 IC のナラティヴ分析

協働意思決定の対話方法論である医療メディエーションの IC 展開について、いじめやハラスメントの修復的司法に基づく医療メディエーショ ンの実践や予期せぬ有害事象の面談対話過程について研究調査する。また、過去 3 年間に実施した研究調査のデータから、IC での倫理的対話を検討する。医療界だけではなく、社会に還元できるような医療ディエーションを提言する。

４．研究成果

（１）通常の IC の実態調査として、① 具体的な疾患としては、生命の予後にかかわる治療の意思決定が数年以内に予期される ALS の患者さん３対象者（患者さんと配偶者計６名）の面談調査を実施し、担当医師との間の信頼関係を構築できた。生命予後に関係する日常診療の意思決定のある IC の対話過程分析は。各々の倫理委員会の許諾と患者さんと担当医の許諾を毎回得て、面談を実施し、信頼関係を構築し、予備調査ができた。② 修復的司法（以下 RJ と称す）の本邦の RJ 研究者（高橋則夫氏や細井洋子氏等諸氏）への面談や調査、フィンランド国立健康＆福祉研究所教授のトム・エーリク・アーンキル氏とも面談調査した。国際学会（Restorative justice beyond the main stream First Annual RJC Conference Nov.2019）に参加して、英国のヘルスケア領域における RJ 調査と文献研究を実施した。また、日本刑事政策研究会での RJ について理解を深め文献研究した。本研究に関わる倫理についても連載執筆をした

（２）IC のやり方において、患者に対する共感の種類が明確化した。経験年数が高く熟練の医師のほうが認知的共感と情動的共感のバランスを取りやすく、紛争予防に寄与している可能性が IC の対話過程分析で示唆された。参加した臨床医は、IC における意思決定プロセスの促進における医療メディエーションの有用性を肯定評価した[1)]。学会での発表は、複数の学会で公表し、日本医学教育学会の発表は査読論文を公刊した[2)]。

（３）ALS の患者さんの IC における意思決定支援における医療メディエーションの協働意思決定対話の継続調査から、家族・主治医と共に、人工呼吸器装着の協働意思決定支援ができ、患者・

家族より評価された。
また、修復的司法（RJ）である具体的対話方法論として医療メディエーションの有用性について、拡張型心筋症の患者さんのご遺族と主治医・関係者を対象に、修復的司法に基づく実践として研究調査した。具体的には、全員尊重し修復的な視点【① 利害関係者の参加　②包括的で協働的な手続き　③損害とインタレストに焦点をあてる④原因を明らかにする】の視点から、実際の対話過程の調査と録音データを採取した。説明義務の判断基準の論拠となる①合理的患者基準説②具体的患者基準説③二重基準説のすべての３つにみられるのは、医療行為の違法性の阻却のみならず、実際に医療を受けようとしている具体的な患者にとって必要と思われる情報について、医師が、患者が理解しているかどうかを慎重に判断しているにもかかわらず、その対話が時間的にも情報共有として成立してないことが判明した。また、有害事象や緊急事態における臨床の IC として、救急・臓器移植の IC や独自の筆者のモデルとして独自の重症対応メディエーターの教育プログラムを作成し、筑波大学にて試行できた。さらに、いじめ問題での修復的対話の場を設定し協働対話の構築について調査した。第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議のオンラインに参加し刑事司法では、Social inclusion（社会包摂）に関する各国の取り組みを検討した。協働対話がもたらす「共創」について学会発表し、論文にもまとめた。
（４）新型コロナウイルス（SARS-CoV2）のパンデミックにより、世界的な社会状況の変化は継続し、県外・国外共に、学会発表は制限され、諸外国や関係者への調査研究はできなかった。しかし、2020 年に達成できなかった計画についてオンライン等も活用して、感染防御に努めながら、可能な範 囲でワクチンや感染予防下の修復的対話の場で研究調査を遂行した。研究対象の方々の同意については注意深く毎回確認して倫理的配慮を行いながら、実施した。 ①当事者支援のインフォームド・コンセント（IC）については、実際の通常の IC のナラティヴ展開と医療メディエーションの検討として、実践者と非実践者の比較検討を実施し、査読のある英語論文を公刊した[3)]。
②IC の AD（事前指示）、ACP（事前ケア計画）の臨床倫理面での検討として、膵尾部癌 Stage4 の症例の身寄りのない人についての倫理指針について、IC における Jonsen の 4 つの 分析手法【医学的適応（善行と無危害の原則）,患者の意向（自立性尊重の原則）,周囲の状況 （忠実義務と公正の原則）,ＱＯＬ（善行と無危害と自律性尊重 の原理)】で検討し、。今後、論文にまとめる予定である。③民事では、本研究もその一つである国際調停が、もっと社会福祉との協働を考えるべきであると学び、加害者と被害者の共感認識、医師の説明における共感について検討した。
④修復的司法（RJ）である具体的対話方法論である医療メディエーションの有用性について、青少年のいじめやハラスメント問題の修復的司法に基づく医療メディエーショ ンの実践や予期せぬ有害事象の失明患者への対応について実践研究をした。
山形県の中核病院の看護師全数調査により看護師のコンフリクトにおける対応の要因分析で類型化ができ論文で公刊した[4)]。コンフリクトへの対応行動は、年上女性患者、年上男性医師、年下女性看護師に対して、回避が各々59.8%、54.2%、51.8%、協働は 15.3%、18.4%、24.9%であった。年齢、医療メディエーション学習者、管理職の 3 要因が協働的対応をもたらす因子として有意差を認めた。

表 1　コンフリクトに対する協働的反応をもたらす本人因子（多変量解析）

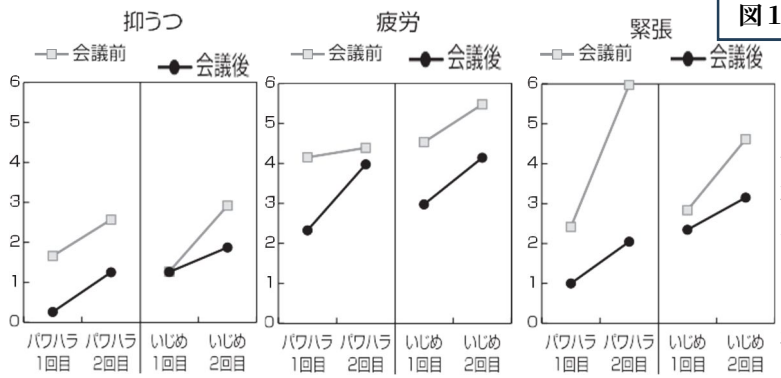
	対年上女性患者 (n=1,747)		対年上男性医師 (n=1,872)		対年下女性看護師 (n=1,726)	
	OR	(95% CI)	OR	(95% CI)	OR	(95% CI)
性別（女性）	1.96	(0.89 - 4.32)	1.30	(0.70 - 2.43)	1.34	(0.79 - 2.28)
年齢	1.02	(1.00 - 1.03)	1.03 **	(1.02 - 1.05)	1.03 **	(1.02 - 1.04)
最終学歴（大卒）	1.03	(0.70 - 1.51)	1.03	(0.72 - 1.47)	1.40 *	(1.02 - 1.92)
結婚歴（あり）	0.91	(0.66 - 1.27)	0.84	(0.62 - 1.13)	0.94	(0.72 - 1.24)
理想の上司（あり）	1.26	(0.83 - 1.90)	1.45 *	(1.01 - 2.12)	1.31	(0.93 - 1.84)
ADR 研参加（あり）	1.89 *	(1.10 - 3.25)	1.19	(0.71 - 1.95)	1.53	(0.94 - 2.48)
役職　一般	Reference		Reference		Reference	
副師長	0.98	(0.63 - 1.51)	1.05	(0.72 - 1.53)	0.97	(0.67 - 1.40)
師長	1.25	(0.66 - 2.34)	1.82 *	(1.06 - 3.15)	1.50	(0.87 - 2.59)
管理職	1.29	(0.33 - 5.02)	2.97	(1.00 - 8.81)	2.80	(0.86 - 9.15)
定数	0.04		0.04		0.06	

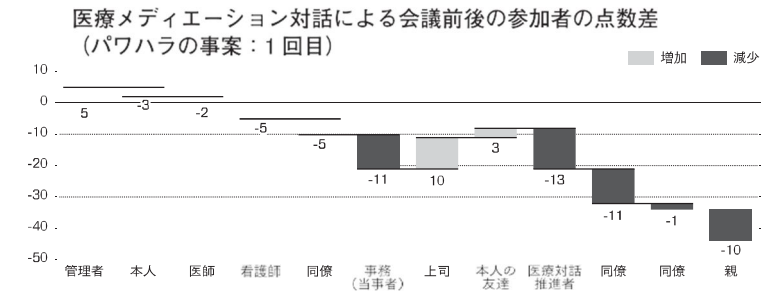
* $p < 0.10$, ** < 0.05, *** < 0.01

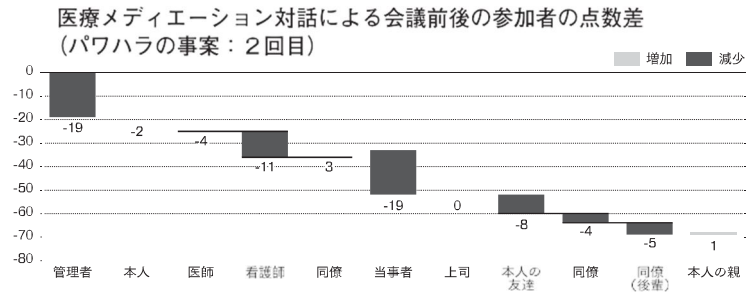
（表１：筆者の論文４)より表 5 引用）

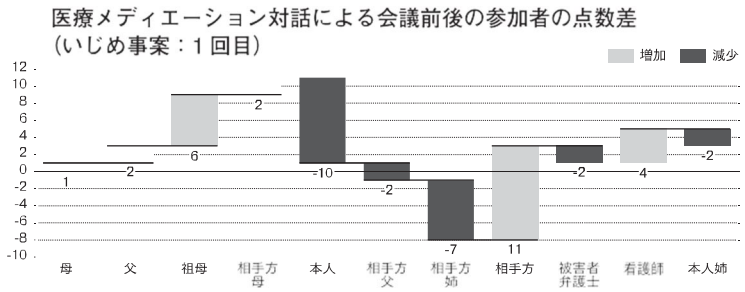
（５）本研究の総括として、IC と倫理、修復的対話と医療メディエーションの関係について、①青少年のいじめ問題の修復的対話研究調査、②修復的正義からみた有害事象における対話過程についての国内外の学会発表と臨床倫理面での検討を継続した。③実際の通常の IC の医療メディエーションの更なる検討の全国調査として、実践者と非実践者の比較研究を実施し、英語論文を公刊した。また、国内外での発表を公表し、Web 等で教育的な提言として発信した。
④第 16 回全国修復的正義（RJ：Restorative Justice）交流会にて、「医療メディエーションによる修復的正義の試み」として、いじめの当事者研究調査について発表した。

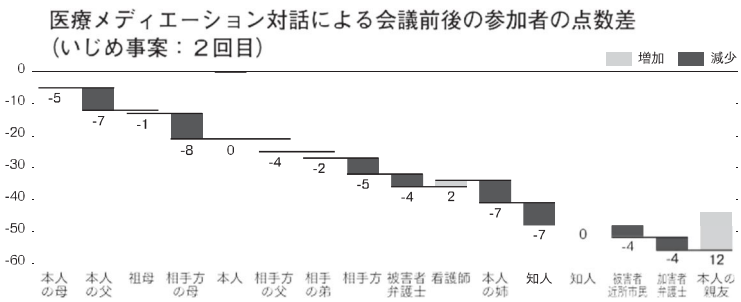
図１：筆者の論文５)より引用）











左図の説明：いじめの当事者研究調査の結果から引用
面談視点は、RJ の重要なポイントである①~⑥の６点（①被害者への支援と癒しの優先、②加害者が自らの過ちに対する責任をとる、③理解に達するまでの対話がある、④犯した過ちを正そうとする試みがある、⑤加害者が将来の再犯を避ける方法を見据えている、⑥被害者と加害者との双方をコミュニティで再統合するのを助ける）とした。この面談の前後で、　記入しやすくした、(1)気分・感情の短期 POMS 尺度質問紙票と、(2)不偏性と面談の意義・内容を口述・自記式質問紙票を用いて参加者から聴取した。(1)感情・気分では、低下がみられたものは抑うつ、疲労、緊張であった。増加したのは活気であった。面談の評価では、１回目においては他の参加者と比較して本人に大きな変化を認めた。２回目には他の参加者でも変化が現れていた。このような結果から、医療メディエーションによる修復的正義の意義が認められた。

⑤The 11th international conference of the European Forum for Restorative justice (EFRJ)で、医療有害事象後の被害者の修復過程について国際学会で発表した。
⑥感染状況における患者・家族と医療者、医療者間、移植治療に従事する支援者、With コロナでの協働、などの複雑な不確実な状況で、双方に信頼された第三者を交えた相互支援の場を提供することに努めた。カナダのブリティッシュコロンビア大学から、予防接種に関する責任と権利についての著書を公刊した[6)]。

綜合的な考察および総括について、以下に述べる。
修復的な営みを有する有害事象での対話概念として、医療メディエーションが相互に協働意思決定として IC に有用であることが、本研究で検証できた。本研究の限界は、被験者や対象者が限定されており、臨床家の IC 内容や経験年数が限られていることから、医師と患者の双方による双方の安心感と説明の理解が進んだという肯定的な評価については、日本という文化的背景を考慮する必要がある。今後、患者も医療者も IC における医療メディエーションの効用に満足しているという事実について、より詳細に評価し、著書や論文にまとめたい。また、本研究から重症対応医療メディエーションや有害事象 IC の研修プログラムを作成予定である。臨床医が IC に関する教育を受けておらず、IC が臨床医の経験によるところが大きい現状では、IC セッションにおける医療メディエーションの活用は、患者の治療に対する不安の解消、患者・家族の理解の促進、医師と患者の対話の向上、治療受け入れの意思決定の共有に寄与すると期待される。
ナラティヴ分析として、医療メディエーション概念による患者と医師に同意を得た IC の対話過程には、患者と医師の理解度も満足度も協働意思決定過程があることは、Visual　Scale や質問紙票調査、テキストマイニング分析などの解析で明らかになった。テキストマイニング分析では、評価の単語頻度分析、共起ネットワーク分析は、医師が患者・家族の関係で理解は双方向の対話過程が在ったことが窺えた。以上のことから、医療メディエーションはインフォームド・コンセント時の対話推進のツールとして有用であることが示唆された。IC の内容のナラティヴ分析では、まず、量的にテキストマイニングデータで分析した結果、少ない発話でも、情報の相互交流が実施されるような共通の言語に特徴がみられた。
これまでの研究結果は、医療メディエーションの協働対話は、コンフリクト・マネジメントしてだけではなく、倫理面における協働意思決定の対話概念として、修復的な営みのある場面では、効用があると示唆された。その教育普及や IC での活用には、理解と実践が不可欠であった。最終的には、本研究の成果として次のことが挙げられた。IC には、時間的・倫理的・修復的・予測的・応答的な構造が必要であること、より良い相互理解、協働意思決定としての対話過程が重要であった。そのためには、対人関係のナラティヴを承認する協働対話をもつ医療メディエーションは共感的で、修復的な営みで関係構築を進め、協働意思決定の協働対話であると提言できることが明確化した。本結果とデータを基に、医療の現場のみならず、社会の様々な場面において活用できるように、医療メディエーション概念による協働対話（関係する当事者と共に創る協働意思決定（Collaborated Decision Making）の対話過程概念）の教育や普及に努める予定である。

＜引用・参考文献＞
１) Nakanishi T, Ito H：“ Situation of empathy among preclinical medical student in Faculty of Medicine, Yamagata University-A longitudinal study. ”,Bulletin of the Yamagata University. Yamagata Med j.2021;39(1):16-24
２）Nakanishi T, Hayasaka M, Endo E, Tsuchiya A：”BENEFITS OF MEDICAL-MEDIATION IN INFORMED CONSENT: EVALUATING CLINICIANS ’ PERSPECTIVES, ” SCIREA journal of clinical medicine，Volume 6, Issue 6, December 2021；ISSN: 2706-8870:488-499
３） Nakanishi T, Sugiura Y, Nohgawa M, Kenshin Sasaki K, Sekikawa M: “ Higher Awareness of the Need for the Education in　Medical Mediation Practitioners in Hospitals in Japan, ” Journal of Clinical Research and Medicine.Vol.5(6): 1-4, 2022
４）中西淑美,伊藤嘉高：自己に正当性がある対人コンフリクト状況下における看護師の協働的対応-社会的属性と医療メディエーション教育に着目して．医療コンフリクト・マネジメント,2022 年 4 月;8(4):33-43
5) 中西淑美: 臨床倫理メディエーション ”Beyond Blame:医療メディエーションによる修復的正　義，文化連情報.2020（37）；505 号：50-54
6）Toshimi Nakanishi, :“ Moving Japan toward the Global Standard for Vaccines, ” Lesley A. Jacobs, Yoshitaka Wada ,and Ilan Vertinsky, Global Health Security in China, Japan, and India, Vancouver: UBC Press, 2023,124-53.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計47件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Nakanishi T,Hayasaka M,Endo E,Tsuchiya A	４．巻 Volume 6, Issue 6, December
２．論文標題 BENEFITS OF MEDICAL-MEDIATION IN INFORMED CONSENT: EVALUATING CLINICIANS' PERSPECTIVES.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 SCIREA journal of clinical medicine (ISSN: 2706-8870)	６．最初と最後の頁 488-499
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 40(8)
２．論文標題 【リスクマネジメント-医療事故そして新型コロナ感染-】リスクとコンフリクト　医療メディエーションによる応答.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本精神科病院協会雑誌	６．最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 514(1)
２．論文標題 臨床倫理メディエーション47　2021年人間の行動と生命倫理	５．発行年 2021年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 515(2)
２．論文標題 臨床倫理メディエーション48　終末期の意思決定と倫理対話	５．発行年 2021年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 64-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 516(3)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション49　自然と人との共生にみる利他性	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 517(4)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション50　日本の予防接種対策におけるリスクと責任(1)-感染症のグローバルスタンダード	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 78-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 518(5)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション51　日本の予防接種対策におけるリスクと責任(2)-不確実性のリスクと予防接種①	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 519(6)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション52　日本の予防接種対策におけるリスクと責任(2)-不確実性のリスクと予防接種②	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 520(7)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション53　日本の予防接種対策におけるリスクと責任(3)-予防接種をめぐる経済的課題	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 61-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 521(8)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション54　日本の予防接種対策におけるリスクと責任(4)-ワクチンによる健康被害と有害事象	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 68-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 522(9)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション55　日本の予防接種対策におけるリスクと責任(5)-予防接種の意思決定とコンフリクト	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 524(11)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション56　日本の予防接種対策におけるリスクと責任(6)-価値共創へ向けて	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 52-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 526(1)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション57　対話と会話	5．発行年 2022年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 528(3)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション58　謝罪と共感-関係修復の意味	5．発行年 2022年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 40-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 529(4)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション59　「平和」とは何か	5．発行年 2022年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 60-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Toshimi Nakanishi , Hirotaka Ito	4．巻 39
2．論文標題 Situation of empathy among preclinical medical student in Faculty of Medicine,Yamagata University- A longitudinal study	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Bulletin of the Yamagata University. Medical science : Yamagata medical journal	6．最初と最後の頁 16-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15022/00004904	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 502
2．論文標題 臨床倫理メディエーション(37)Beyond Blame ： 医療メディエーションによる修復的正義	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 50-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 503
2．論文標題 臨床倫理メディエーション(38)刑事医療裁判における修復的司法の実践は可能か	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 504
2．論文標題 臨床倫理メディエーション(39)修復的正義の実践に向けて ： 「害」と「傷」のピアサポート	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 60-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 505
2．論文標題 臨床倫理メディエーション(40)感染と倫理	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 506
2．論文標題 臨床倫理メディエーション(41)感染予防に潜む倫理 ： COVID-19感染流行(1)	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 507
2．論文標題 臨床倫理メディエーション(42)感染予防に潜む倫理 ： COVID-19感染流行(2)	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 52-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 508
2．論文標題 臨床倫理メディエーション(43)感染予防に潜む倫理 ： COVID-19感染流行(3)三つの感染症を防ぐ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化連情報（508），62-68，2020-07	6．最初と最後の頁 62-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 510
2．論文標題 臨床倫理メディエーション(44)再びの安楽死と尊厳死 ： 生と死をめぐる意思決定	5．発行年 2020年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 65-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 511
２．論文標題 臨床倫理メディエーション(45)テレワーク等から考える職業倫理	５．発行年 2020年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 68-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 513
２．論文標題 臨床倫理メディエーション(46)AIと倫理	５．発行年 2020年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 60-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 514
２．論文標題 臨床倫理メディエーション(47)2021年 ： 人間の行動と生命倫理	５．発行年 2021年
３．雑誌名 文化連情報（514），70-75，2021-01	６．最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 515
２．論文標題 臨床倫理メディエーション(48)終末期の意思決定と倫理対話	５．発行年 2021年
３．雑誌名 文化連情報（515），64-68，2021-02	６．最初と最後の頁 64-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 516
2．論文標題 臨床倫理メディエーション(49)自然と人との共生にみる利他性	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 43（5）
2．論文標題 臨床倫理メディエーション.(特集　それっていざこざ？-医療現場のコンフリクト・マネジメント　知っておきたいキーワード）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 救急医学	6．最初と最後の頁 541-547
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 493
2．論文標題 攻撃(人を傷つける心）と倫理 臨床倫理メディエーション講座32.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 44-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 494
2．論文標題 臨床倫理の知(1) 臨床倫理メディエーション講座33.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 50-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 495
２．論文標題 臨床倫理の知(2) 臨床倫理メディエーション講座34.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 496
２．論文標題 同意について（１） 臨床倫理メディエーション講座35.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 497
２．論文標題 同意について（２）臨床倫理メディエーション講座36.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 56-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中西淑美	４．巻 502
２．論文標題 Beyond Blame- 医療メディエーションによる修復的正義- 臨床倫理メディエーション講座37.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化連情報	６．最初と最後の頁 50-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 503
2．論文標題 刑事裁判における修復的司法の実践は可能か- 臨床倫理メディエーション講座38.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 504
2．論文標題 修復的正義の実践に向けて- 「害」と「傷」のピアサポート- 臨床倫理メディエーション講座39.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 46-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美，伊藤重治，高窪裕弥，高木理彰	4．巻 49（12）
2．論文標題 人工股関節置換術時の医師のストレス評価の予備検討.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本 人工関節学会誌	6．最初と最後の頁 563-564
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 69巻6号
2．論文標題 "共創未来"　協働意思決定にむけて	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本農村医学会雑誌.	6．最初と最後の頁 580-584
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美，伊藤嘉高	4．巻 8(3)
2．論文標題 自己に正当性がある対人コンフリクト状況下における看護師の協働的対応-社会的属性と医療メディエーション教育に着目して-	5．発行年 2022年
3．雑誌名 医療コンフリクト・マネジメント	6．最初と最後の頁 33-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Toshimi Nakanishi1,Yoshihiro Sugiura, Masaharu Nohgawa,Kenshin Sasaki,Misa Sekikawa	4．巻 Volume 5 Issue 6
2．論文標題 Higher Awareness of the Need for the Education in Medical Mediation Practitioners in Hospitals in Japan	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Journal of Clinical Research and Medicine	6．最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Toshimi Nakanishi,Lesley A,Jacobs,Yoshitaka Wada, and Ilan Vertinsky	4．巻 1
2．論文標題 Moving Japan toward the Global Standard for Vaccines	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Lesley A. Jacobs, Yoshitaka Wada, and Ilan Vertinsky Global Health Security in China, Japan, and India, Vancouver: UBC Press,	6．最初と最後の頁 124-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 中西淑美	4．巻 532(7)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション　入院時重症患者対応メディエーターについて	5．発行年 2022年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 68-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 536(11)
2．論文標題 臨床倫理メディエーション　医学的無益性	5．発行年 2022年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 520(1)
2．論文標題 医学的無益性－個別の治療決定にある倫理課題	5．発行年 2023年
3．雑誌名 文化連情報	6．最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西淑美	4．巻 29(11)
2．論文標題 重症患者・家族との新しいコミュニケーション　医療メディエーションを活用	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本集中治療学会雑誌	6．最初と最後の頁 254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計22件（うち招待講演　17件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 中西淑美
2．発表標題 臨床倫理ー自律尊重と意思決定
3．学会等名 第3回日本整形外科勤務医会東北地区研修会　2020年6月27日（招待講演）
4．発表年 2020年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 “共創未来” ― 協働意思決定に向けて
３．学会等名 第69回日本農村医学会　学術総会　2020年10月12日（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療メディエーションと医療安全
３．学会等名 新潟県病院協会　医療安全研究会　2020年10月２７日（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 コンフリクト・マネジメント　医療メディエーションへの誘い＝関係の質の向上
３．学会等名 第35回山形県調停協会連合会大会　記念講演会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 （医療安全）専門医共通講習　患者安全の「認知」作用薬一医療メディエーション
３．学会等名 日本麻酔科学会　2019年度東北支部学術集会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療メディエーション研修からみた患者・医師関係の研修行動目標のあり方
３．学会等名 第51回日本医学教育学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 コンフリクト・マネジメントとしての医療メディエーション
３．学会等名 第15回仲裁ADR法学会大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 調査・説明の羅針盤-医療メディエーションを活用する
３．学会等名 広島県医師会　医療事故調査制度対応支援委員・外部委員研修会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療メディエーションと協働意思決定
３．学会等名 臓器提供施設連携体制構築事業講演会,web愛知（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 傷つかない、傷つけない看護のために-医療メディエーションの活用-
３．学会等名 令和3年度看護師職能集会，岩手（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 重症患者・家族との新しいコミュニケーション-医療メディエーションを活用-
３．学会等名 第49回日本集中治療医学会学術集会，仙台（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療メディエーション教育の必要性における実践者と非実践者による知識の差
３．学会等名 第24回日本医療マネジメント学会，神戸
４．発表年 2022年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 インフォームド・コンセントにおける　医療メディエーションの利点-臨床家の評価視点から
３．学会等名 第54回日本医学教育学会大会，群馬
４．発表年 2022年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 日常診療における医療倫理の重要性について
３．学会等名 第49回日本股関節学会学術集会，山形（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 対話推進教育の重要性
３．学会等名 第12回日本医療コンフリクト・マネジメント学会 web 栃木（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 臓器・組織提供時の家族ケア
３．学会等名 第58回日本移植学会総会，名古屋（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 Withコロナでの協働
３．学会等名 第12回日本医療コンフリクト・マネジメント学会 web 栃木（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 集中医療での医療者と患者・家族の思いを紡ぐ医療メディエーション
３．学会等名 第50回日本集中治療医学会学術集会，京都（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Toshimi Nakanishi
２．発表標題 RESTORATIVE JUSTICE AND ITS SIGNIFICANCE IN MEDICAL MEDIATION Rebuilding broken trust
３．学会等名 The 11th international conference of the European Forum for Restorative Justice (EFRJ) SASARI June 23th -25th 2022（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 医療メディエーションによる修復的正義(Restorative Justice)の試み
３．学会等名 第16回RJ全国交流会，東京
４．発表年 2022年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 人材管理Ⅱ：多職種チームのマネジメントについて
３．学会等名 認定看護管理者教育課程セカンドレベル　山形県看護協会会館　山形
４．発表年 2022年

１．発表者名 中西淑美
２．発表標題 「“ 共創未来 ”－　協働意思決定に向けて」
３．学会等名 第17回中通医療連携セミナー学術集会，秋田（招待講演）
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関